

ABU賞 NHKの2作品が受賞！

ABU(アジア太平洋放送連合)加盟の放送機関が制作したテレビ・ラジオ番組の中で優れた作品に贈られるABU賞の授賞式が3日夜(現地時間)テヘランで行われました。今年はテレビ・ラジオあわせて13部門に47の放送機関から199作品の応募があり、最終ノミネートされた53作品の中から、NHKが制作した以下の2つの作品が、部門最優秀賞に当たる「ABU賞」を受賞しました。



テレビ・エンターテインメント番組部門

ハイビジョン特集「富田 勲 仏法僧に捧げるシンフォニー」

平成19年4月28日放送(52分)

今年74歳を迎える作曲家、富田勲。1970年代から世界に先駆けてシンセサイザーの作編曲・演奏に着手し世界的な名声を築いた。富田が今年取り組んでいるのが、第二の故郷、三河の地で今はめったに聞くことが出来ない幻の仏法僧(コノハズク)をテーマに、63年ぶりに再訪した鳳来寺山の空間で演奏する新しい作品の作曲である。番組では、これまでのトミタサウンドの変遷をたどりながら、最新技術のサラウンドで構成する2006年新作品の創作過程を密着取材した番組。

テレビ・スポーツ番組部門



NHKスペシャル「荒川静香 金メダルへの道」

平成18年2月25日放送(52分)

トリノ五輪のフィギュアスケートで金メダルを獲得した荒川静香。その夢をかなえるまでを密着したドキュメンタリー。荒川選手の前に大きく立ちはだかったのは「美しさ」より「技術」が重視される新採点法。ひたすら美しい演技を目指してきた荒川選手の得点は伸び悩んだ。しかし、荒川選手は自分の滑りにこだわった。「美しいすべり」を維持しつつ、いかに得点をあげるか。自分らしさを貫き通し、夢をつかんだ一人のアスリートの記録。

なお、テレビ・ドラマ番組部門にエントリーしていた土曜ドラマ「ハゲタカ」第1回「日本を買い叩け！」(平成19年2月17日放送)と、ドキュメンタリー番組部門にエントリーしていたNHKスペシャル「敵対的買収を防げ 新日鉄・トップの決断」(平成19年5月7日放送)は、惜しくもABU賞は逸しましたが、審査員推薦番組として表彰されました。

< ABU賞について >

ABU賞は、1964年、第1回ABU総会で創設が決まって以来、毎年、年次総会にあわせて審査と授賞式が行われています。昨年より部門が一部変更され、テレビ7部門(ドラマ/エンターテインメント/子ども/青少年/ニュース/ドキュメンタリー/スポーツ)、ラジオ6部門(ドラマ/インフォテインメント/子ども・青少年/ニュース/ドキュメンタリー/国際放送)の各部門の最優秀作品にそれぞれABU賞が贈られます。今回は47の加盟放送機関から199作品(テレビ141作品、ラジオ58作品)が出品されました。

< 過去にABU賞を受賞した番組 >

2006年

ABU賞

- ・ 土曜ドラマ 氷壁 第2回「生死を賭けた挑戦」(テレビ：ドラマ番組部門)
- ・ NHKスペシャル「ひとり 団地の一室で」(テレビ：ニュース番組部門)
- ・ FMシアター「はるさんの日記」(ラジオ：ドラマ番組部門)

2005年

ABU賞

- ・ 「クインテット」(テレビ：子ども青少年番組部門)
- ・ FMシアター ベトナムの現代文学「戦争の悲しみ」(ラジオ：ドラマ番組部門)

< ABUとは >

ABUは、1964年に発足したアジア太平洋地域の放送の発展を図るために協力する放送機関の連合体(2007年5月現在、53か国・地域の117放送機関が加盟)。ニュース交換(アジアビジョン)、スポーツ放送権交渉、技術情報交換、発展途上国会員への助言サービスなどを実施しています。